

令和4年度 第2回栃木県公共事業評価委員会資料

快適で安全な道づくり事業

(主要地方道小山環状線 粟宮アンダー)

- | | |
|-------------------|----------|
| ・自己評価書及び事業概要図 | P. 2～5 |
| ・パブリック・コメントの概要 | P. 6 |
| ・パブリック・コメントの実施案内 | P. 7 |
| ・提出意見とそれに対する県の考え方 | P. 8～9 |
| ・説明用資料 | P. 10～22 |

栃木県公共事業事前評価 自己評価書【県土整備部 道路事業】

事業の概要

担当課：道路整備課

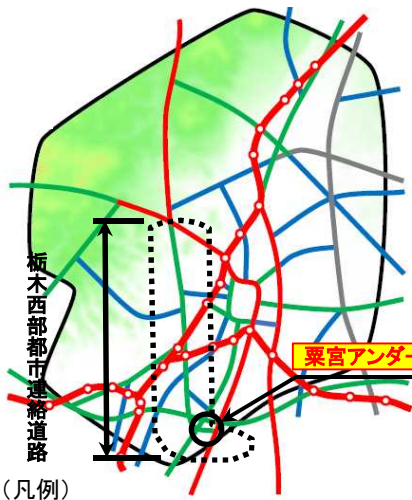
事業名	快適で安全な道づくり事業		事業主体	栃木県
事業箇所	主要地方道小山環状線 <small>あわのみや</small> 粟宮アンダー <small>おやましあわのみや</small> 小山市粟宮			
事業の目的、事業発案の経緯・背景 主要地方道小山環状線の当該区間は、「とちぎの道路・交通ビジョン2021（R3.6）」において一般広域道路「栃木西部都市連絡道路」（以下、「栃木西部都市連絡道路」という。）として位置づけられているとともに、「小山市都市計画マスタープラン」における小山市外環状線の一部を構成する都市計画道路3・2・101号粟の宮線として、都市の骨格を形成する路線である。 さらに、近傍には防災拠点である新小山市市民病院（二次救急医療機関）が立地しているほか、今年度から粟宮新都心第一土地区画整理事業が着手されるなど、当該道路の重要性が高まっている。 しかしながら、本事業箇所については、道幅が狭く大型車両のすれ違いが困難であるとともに、JR東北本線の踏切部では、緊急車両の円滑な通行に支障をきたしている。 このため、立体交差化（アンダー形式）することにより踏切を除却し、新小山市市民病院へのアクセス強化を図るとともに、小山市中心市街地に流入する通過交通を分散し、市街地中心部の交通渋滞緩和や交通事故の削減を図るものである。				
事業内容 ・ルートは、平成29年2月に都市計画決定された都市計画道路3・2・101号粟の宮線を基本とする。 ・車線数は、計画交通量に基づき2車線とする。				
・総延長：800m ・計画交通量：14,700台/日 ・道路区分：第4種第1級 ・車線数：2車線 ・標準幅員：17.5m（車道3.25m×2、中央帯2.5m、路肩0.75m×2、自転車歩行者道3.5m×2） ・主要構造物：立体交差（アンダー形式）（JR東北本線、JR東北新幹線）				
事業予定期間	令和5年度～令和14年度（予定） 【事業スケジュール（予定）】 道路詳細設計：令和5年度 用地調査：令和5年度 用地取得：令和5年度～令和9年度 工事実施：令和9年度～令和14年度	事業見込額及び内訳	総事業費	約80億円
			事業費内訳	測量設計費：約 2億円 用地補償費：約 18億円 工事費：約 60億円
			財源内訳	国費：50% 県費：50%
事業概要図 別紙記載				
県計画への位置付け ・「県土づくりプラン2021」：重点施策「誰もが安全で安心して利用できる道づくり」に位置づけられている。 ・「とちぎの道路・交通ビジョン2021」：「栃木西部都市連絡道路」に位置づけられている。 ・「小山栃木都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」：周辺都市との移動や連携の促進を図る「都市間連携軸」に位置づけられている。				
他計画・他事業との関連 ・「小山市都市計画マスタープラン」：小山市の外環状線として位置づけられている。 ・主要地方道小山環状線粟宮工区 H24～R4（予定） ・主要地方道小山環状線粟宮南工区 H29～R4（予定） ・粟宮新都心第一土地区画整理事業 R4～R9（予定）				

事業の評価

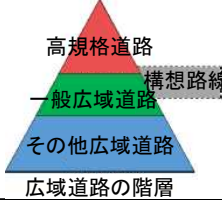
評 価 の 視 点	1 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 都市の骨格を担う道路として、平成29年2月に都市計画決定された道路である。 本県西部地域において南北の連携・交流軸の強化を図るため、栃木西部都市連絡道路の整備が必要である。 災害時の救護活動を支える防災拠点（新小山市民病院等）への道路ネットワーク強化が必要である。 小山市街地の渋滞緩和のため、環状道路を整備することで、中心市街地内に流入する通過交通を分散する必要がある。 狭隘で事故が多い道路において、立体交差化することで踏切を除却し、緊急車両の円滑な交通を確保する必要がある。
	2 事業の適時性 （今事業に着手する理由等）	<ul style="list-style-type: none"> 本工区が接続する小山環状線栗宮工区、栗宮南工区が令和5年春に供用を予定していることから、道路ネットワークとしての効果を早期に発現させるため、継続して整備に着手する必要がある。 今年度から栗宮新都心第一土地区画整理事業が始まり、交通量の更なる増加が見込まれるため、早期に整備に着手する必要がある。
	3 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ルートは、現道と同位置であり、都市計画道路3・2・101号栗の宮線と整合する計画である。
	4 事業手法の適切性 （県が事業主体となる理由等）	<ul style="list-style-type: none"> 主要地方道小山環状線であることから、道路管理者として県が事業を実施する。
	5 事業により予想される効果及び影響 （機能的な効果 ・経済的な効果 ・他計画、他事業への波及効果 ・環境への影響など）	<ul style="list-style-type: none"> ○投資効果 <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比（B/C） 1.5 ・総便益（B） 83.5億円 ※供用後50年間の効果を金銭に換算したもの 走行時間短縮(78.0億円)、走行経費減少(5.1億円)、交通事故減少(0.40億円) ・総費用（C） 56.4億円 ※建設費と供用後50年間の維持管理費を含む ○栃木西部都市連絡道路として道路ネットワークを強化することで、地域間の連携・交流の促進が図られる。 ○災害時の救護活動を支える防災拠点（新小山市民病院等）への道路ネットワーク機能が強化される。 ○環状道路の機能が強化され、中心市街地に流入する交通が分散することで、交通渋滞の緩和や交通事故の削減が図られる。
	6 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・立体交差部（アンダー形式）の構造物においては、工法の比較検討を行い、コスト縮減を図る。 ・再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。
事業の対応方針(案)		本事業については、令和5年度より着手する。

事業概要図

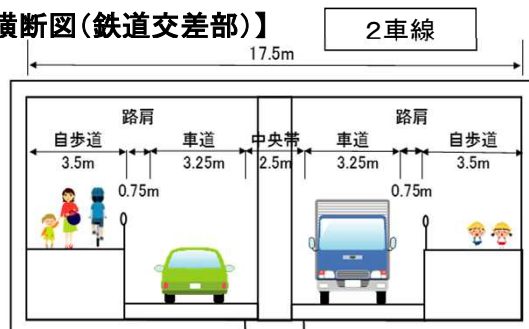
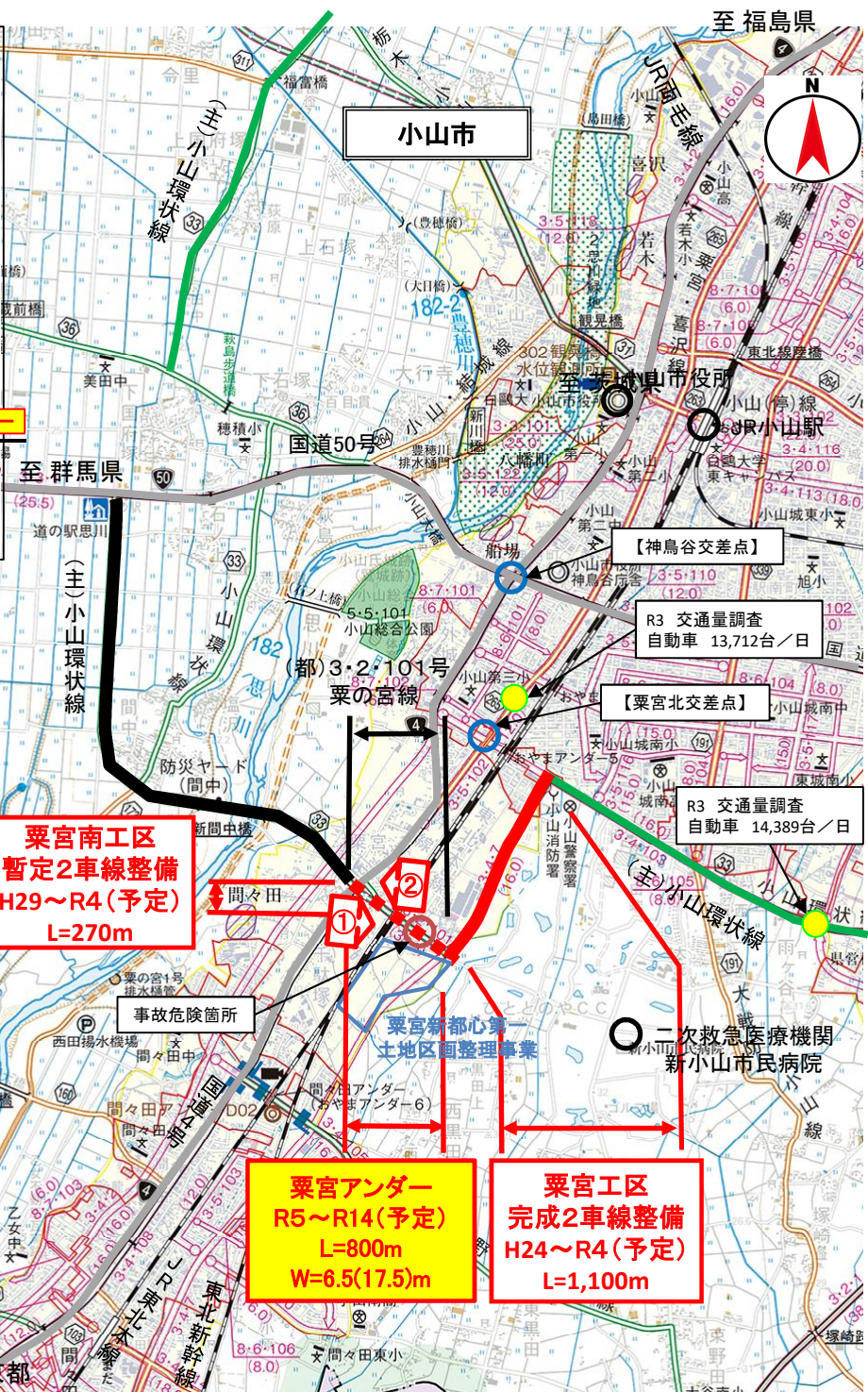
とちぎの道路・交通ビジョン2021
(広域道路交通計画編)



(凡例)



凡例	
事業予定箇所	■■■■■
事業中箇所	■■■■■
整備済箇所	■■■■■
写真撮影位置	📷➡
主要渋滞箇所	🟦○
事故危険箇所	🟡○



①狭隘な道路（JR東北本線踏切）



②朝夕を中心に渋滞



パブリック・コメントの概要

栃木県公共事業評価実施要領第4の2に基づき、公共事業事前評価（自己評価書）に対するパブリック・コメントを実施し、県民からの意見を聴取しました。

1 実施について

- (1) 事業名：快適で安全な道づくり事業
(主要地方道 小山環状線小山市栗宮アンダー)
- (2) 実施機関：栃木県（県土整備部 道路整備課）
- (3) 実施期間：令和4（2022）年9月9日（金）～令和4（2022）年10月11日（火）
- (4) 閲覧資料：自己評価書、事業概要図
- (5) 閲覧方法：
 - ① 栃木県ホームページ
https://www.pref.tochigi.lg.jp/h04/kouhou/awanomiya_r40909.htm
 - ② 文書閲覧
 - ・ 県民プラザ（栃木県庁舎本館2階）
 - ・ 上都賀県民相談室（上都賀庁舎1階）
 - ・ 芳賀県民相談室（芳賀庁舎1階）
 - ・ 下都賀県民相談室（下都賀庁舎1階）
 - ・ 小山県民相談室（小山庁舎1階）
 - ・ 塩谷県民相談室（塩谷庁舎1階）
 - ・ 那須県民相談室（那須庁舎1階）
 - ・ 南那須県民相談室（南那須庁舎1階）
 - ・ 安蘇県民相談室（安蘇庁舎1階）
 - ・ 足利県民相談室（足利庁舎1階）
 - ・ 栃木土木事務所（下都賀庁舎2階）
- (6) その他、記者クラブへの資料提供（令和4（2022）年9月8日）

2 結果について

提出件数：4件（意見者の居住地：小山市4名）

提出方法：メール3件、FAX1件（事業推進4名、事業反対0名）

3 結果の公表について

パブリック・コメントの結果は、今回の公共事業評価委員会の審議を経た後、公表します。

快適で安全な道づくり事業（主要地方道 小山環状線 栗宮アンダー）に対するパブリック・コメント（県民意見の募集）の実施について

栃木県では、道路事業の計画段階において、県民の皆さんから幅広く御意見を聞きながら、事業推進の必要性や妥当性を検討していくこととしています。

今回、新たに着手しようとしている事業について、これまでの県の検討概要を取りまとめた自己評価書及び事業概要図を下記のとおり公表しますので、県民の皆さんの御意見をお寄せください。

1 公表する資料

- (1) 快適で安全な道づくり事業（主要地方道 小山環状線 栗宮アンダー）の自己評価書及び事業概要図

2 資料の閲覧方法

- (1) ホームページ

http://cms.pref.tochigi.lg.jp/cms8341/h04/houdou/r40909_awanomiya.html

- (2) 文書閲覧

・県民プラザ	宇都宮市塙田1-1-20（栃木県庁舎本館2階）	電話 028-623-3766
・上都賀県民相談室	鹿沼市今宮町1664-1（上都賀庁舎1階）	電話 0289-64-9419
・芳賀県民相談室	真岡市荒町116-1（芳賀庁舎1階）	電話 0285-82-5888
・下都賀県民相談室	栃木市神田町6-6（下都賀庁舎1階）	電話 0282-24-5665
・小山県民相談室	小山市犬塚3-1-1（小山庁舎1階）	電話 0285-22-9164
・塩谷県民相談室	矢板市鹿島町20-22（塩谷庁舎1階）	電話 0287-43-2142
・那須県民相談室	大田原市中央1-9-9（那須庁舎1階）	電話 0287-23-1555
・南那須県民相談室	那須烏山市中央1-6-92（南那須庁舎1階）	電話 0287-83-1555
・安蘇県民相談室	佐野市堀米町607（安蘇庁舎1階）	電話 0283-24-2603
・足利県民相談室	足利市伊勢町4-19（足利庁舎1階）	電話 0284-42-9700
・栃木土木事務所	栃木市神田町6-6（下都賀庁舎2階）	電話 0282-23-3593

3 意見の募集期間

令和4（2022）年9月9日（金曜日）から令和4（2022）年10月11日（火曜日）必着

4 意見の提出先及び問合せ先、提出方法

- (1) 提出先及び問合せ先 〒320-8501

宇都宮市塙田1-1-20（栃木県庁舎本館13階）

栃木県県土整備部道路整備課整備調査担当

電話 028-623-2413

- (2) 提出方法

次のいずれかの方法により日本語で提出してください。様式は任意ですが、住所、氏名、電話番号を記載してください。県外居住の方は、県内の通勤、通学先の所在市町名も併せて記載してください。

- ・郵送 上記4（1）のとおり
- ・ファックス 028-623-2417
- ・電子メール doro-seibi@pref.tochigi.lg.jp

5 意見の取扱い

- (1) お寄せいただいた御意見は、十分に考慮の上、計画に反映するとともに、内容ごとに整理・分類した上で、これに対する県の考え方を公表いたします。
- (2) 住所・氏名などの個人に関する情報及び個人の特定につながる内容は公表しません。また、他の目的で使用することはありません。
- (3) 個々の御意見に直接回答はいたしませんので、御了承願います。

【提出意見とそれに対する栃木県の考え方】

「快適で安全な道づくり事業（主要地方道小山環状線 栗宮アンダー）」に対する意見募集を行った結果、4名の方から御意見を頂きました。貴重な御意見ありがとうございました。

提出された御意見を十分検討の上、それに対する県の考え方を次のとおりまとめました。

項 目	意 見 の 内 容	意見に対する考え方
事業推進	<p>現道は、道幅が狭くトラックが多く通っており、すれ違いが危険な状況であり、且つ踏切での待ち時間が多いため不便に感じております。</p> <p>1日でも早い完成を心待ちにしております。</p>	<p>本事業により、立体交差化し踏切を除却することで、安全・安心で円滑な道路交通が確保されるものと考えています。</p> <p>事業着手後は、地元の御協力を頂きながら、早期完成に向けて、事業推進に努めて参ります。</p>
事業推進	<p>通勤で栗宮1丁目に向かうのに、栗宮アンダーが予定されている踏切を通り、国道4号に出ています。</p> <p>しかし、この道路は朝夕でひどい渋滞があり難儀しています。</p> <p>一刻も早く、栗宮アンダーを作ってください。</p> <p>少しでも老後に希望が持てたらと思います。</p>	<p>本事業により、立体交差化し踏切を除却することで、安全・安心で円滑な道路交通が確保されるものと考えています。</p> <p>事業着手後は、地元の御協力を頂きながら、早期完成に向けて、事業推進に努めて参ります。</p>
事業推進	<p>小山野木線から国道4号線栗宮（南）交差点を利用しています。</p> <p>新間中橋から国道4号への環状道路が完成してから国道4号線、栗宮（南）交差点の渋滞が激しくなったように思います。</p> <p>1日でも早い栗宮アンダーの完成を望みます。</p>	<p>本事業により、栗宮アンダーを整備し踏切を除却することで、安全・安心で円滑な道路交通が確保されるものと考えています。</p> <p>事業着手後は、地元の御協力を頂きながら、早期完成に向けて、事業推進に努めて参ります。</p>
事業推進	<p>国道4号から小山野木線までの区間は、朝夕の通勤・帰宅時には大変渋滞し外出する場合には、大変不便をきたしています。</p> <p>この区間だけ道路が狭く近隣の地元企業に出入りする大型車両も多いので、大変危険な状況となっています。</p> <p>この度、令和5年度より道路整備に着手することとなりますので、事業について大いに歓迎するとともに、早期の完成をお願いいたします。</p>	<p>本事業により、立体交差化し踏切を除却することで、安全・安心で円滑な道路交通が確保されるものと考えています。</p> <p>事業着手後は、地元の御協力を頂きながら、早期完成に向けて、事業推進に努めて参ります。</p>

なお、上記のほか、次のような御意見がありました。今回の意見募集の趣旨には沿いませんので、御意見を伺うのみといたしました。

項 目	意 見 の 内 容
その他	同道路から新4号バイパスへ出るまでの小山環状線も大変混雑しており、こちらにつきましても何か対応をお考えいただけると大変ありがたい。

快適で安全な道づくり事業

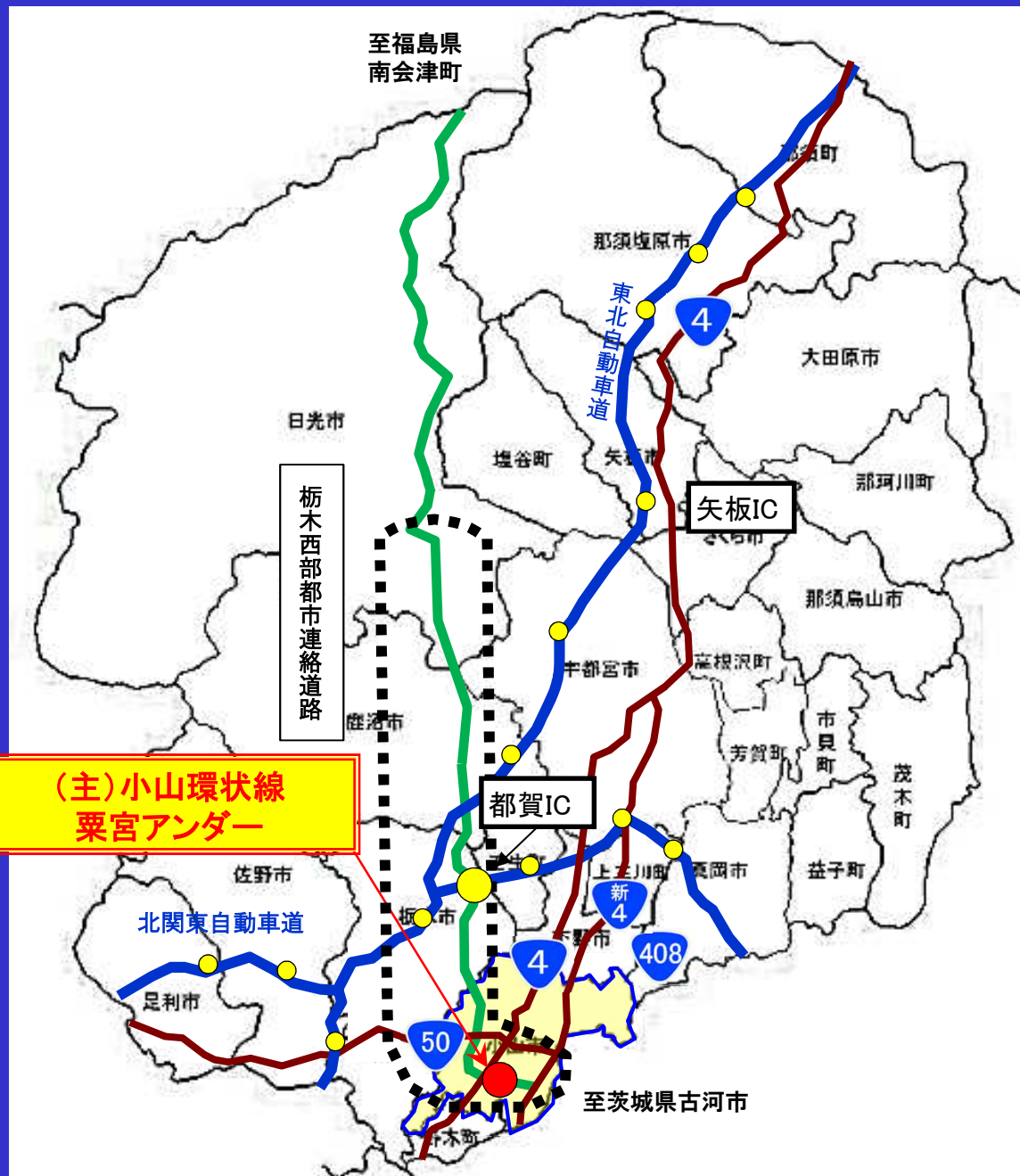
主要地方道小山環状線

あわのみや
栗宮アンダー

県土整備部 道路整備課



【位置図】



【事業箇所の概要】

とちぎの道路・交通ビジョン2021 (広域道路交通計画編)



- ・(主)小山環状線の当該区間は、「とちぎの道路・交通ビジョン2021」において一般広域道路「**栃木西部都市連絡道路**」に位置づけられた道路
- ・首都圏から県西部を経て、福島県会津地域へ通じる南北軸の一部を構成

【事業箇所の概要】

小山市都市計画マスタープラン

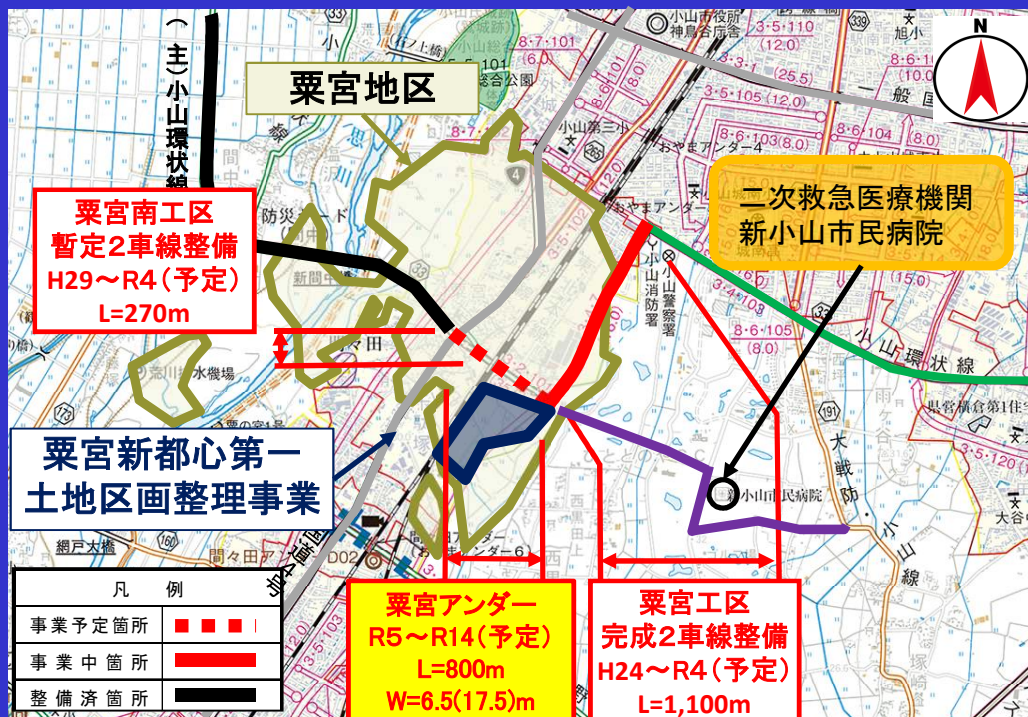


- ・(主)小山環状線の当該区間は、「小山市都市計画マスタープラン」における**小山市**そと かんじょうせん**外環状線**の一部を構成する**都市計画道路3・2・101号栗の宮線**として、都市の骨格を形成

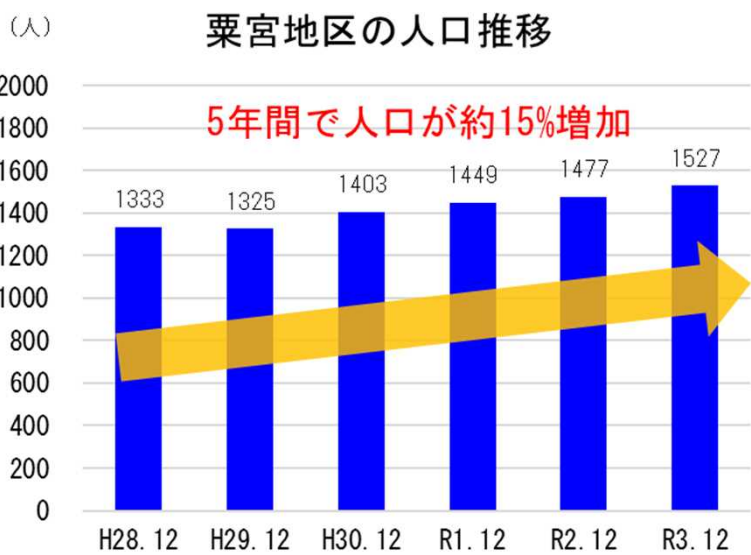
(主)小山環状線
栗宮アンダー

(都)3・2・101号
栗の宮線

【事業箇所の概要】



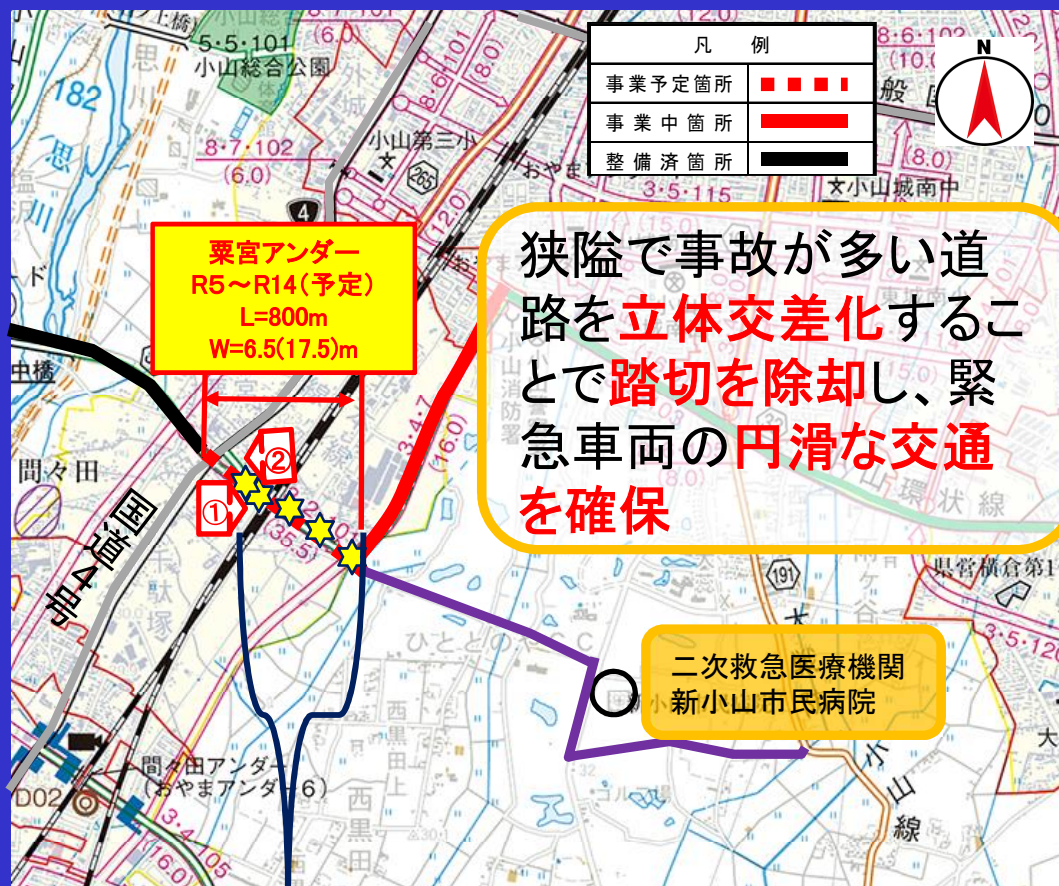
栗宮新都心基本計画 出典:小山市HP



- ・近傍には、防災拠点である**新小山市民病院(二次救急医療機関)**が立地
- ・R4年度から**栗宮新都心第一土地区画整理事業(約20ha)**が着手(R4～R9予定)
- ・本工区が接続する(主)小山環状線**栗宮工区、栗宮南工区**が令和5年春に供用予定

【事業の目的】

■道路ネットワーク強化



★ 交通事故の発生状況
(粟宮アンダー工区内)

5件 / 3年間

2019年9月1日～2022年8月31日

※出典: 栃木県警 交通事故発生状況マップ

狭隘な道路 (JR東北本線踏切)

①



朝夕を中心に渋滞

②



【事業の目的】

■道路ネットワーク強化



新小山市市民病院



小山市消防本部



消防(小山市)の緊急出動件数

R3年 7,885件

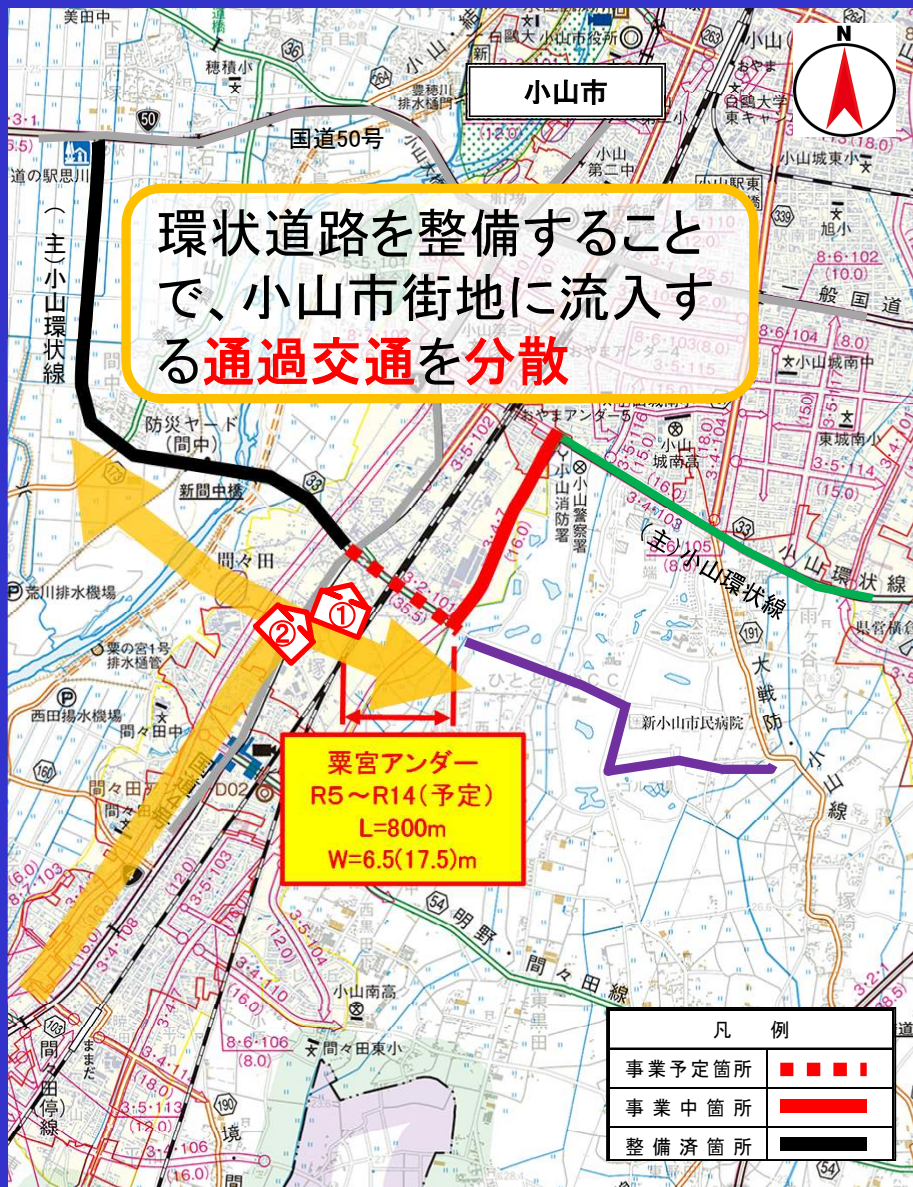
R2年 7,567件

R元年 8,744件

※出典:小山市HP

【事業の目的】

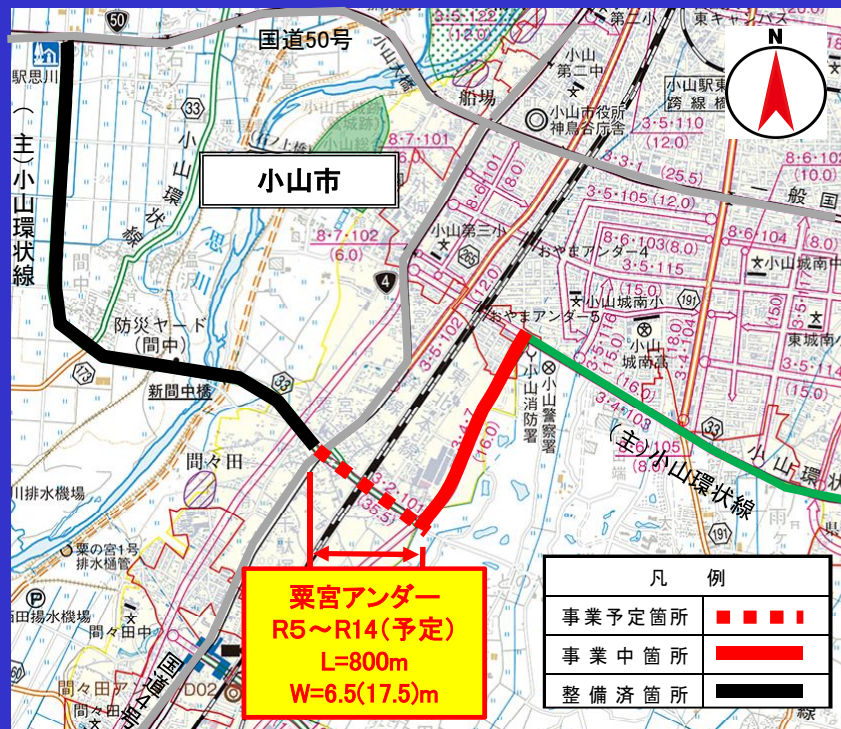
■ 中心市街地の渋滞緩和



小山市街地へ向かう国道4号の渋滞状況

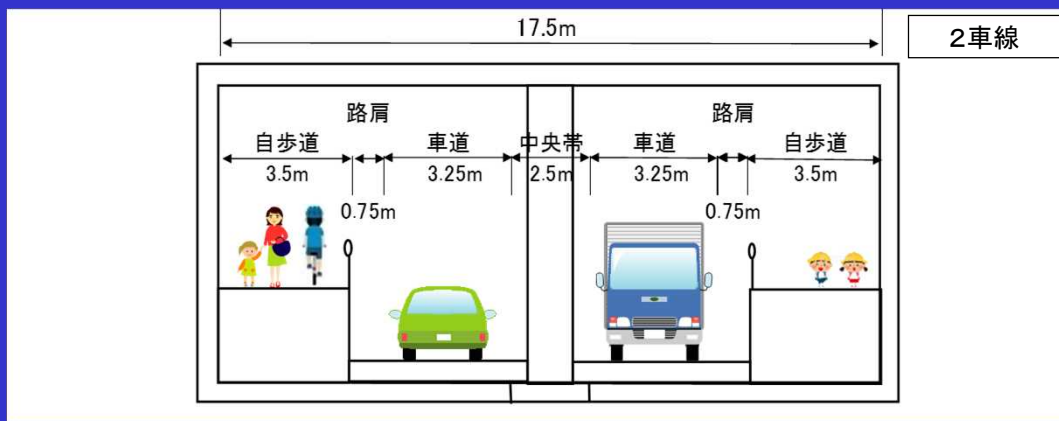


【事業内容】



- ①ルート：(都) 3・2・101号粟の宮線を基本
- ②車線数：2車線
- ③総延長：800m
- ④計画交通量
14,700台/日
- ⑤道路区分：第4種第1級
- ⑥標準幅員：17.5m
(車道3.25m×2、中央帯2.5m、路肩0.75m×2、
自転車歩行者道3.5m×2)
- ⑦主要構造物
立体交差(アンダー形式)
(JR東北本線、JR東北新幹線)

【横断図(鉄道交差部)】



【事業予定期間】

令和5年度～令和14年度

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
測量設計	●—●									
用地		●—				●				
工事					●—					●

【事業見込額及び内訳】

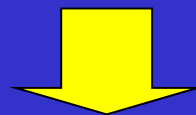
総事業費：約80億円

測量試験費	約2億円
用地補償費	約18億円
工事費	約60億円

【事業の投資効果①】

費用便益比 (B/C)	便益(B) (億円)	費用(C) (億円)
1.5	83.5	56.4

- ・総便益(B) ※供用後50年間の効果を金銭に換算したもの
走行時間短縮(78.0億円)、走行経費減少(5.1億円)、交通事故減少(0.40億円)の合計
- ・総費用(C) ※建設費と供用後50年間の維持管理費を含む



投資効果が得られる

【事業の投資効果②】

- 栃木西部都市連絡道路として道路ネットワークを強化することで、地域間の連携・交流の促進が図られる
- 災害時の救護活動を支える防災拠点（新小山市民病院等）への道路ネットワーク機能が強化される
- 環状道路の機能が強化され、中心市街地に流入する交通が分散することで、交通渋滞の緩和や交通事故の削減が図られる

【事業のコスト縮減】

- 立体交差部（アンダー形式）の構造物においては、工法の比較検討を行い、コスト縮減を図る
- 再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る